

第7回、映画上映会のお知らせ！

タイトル:ビルマの豎琴

兼2月弘明寺サロン

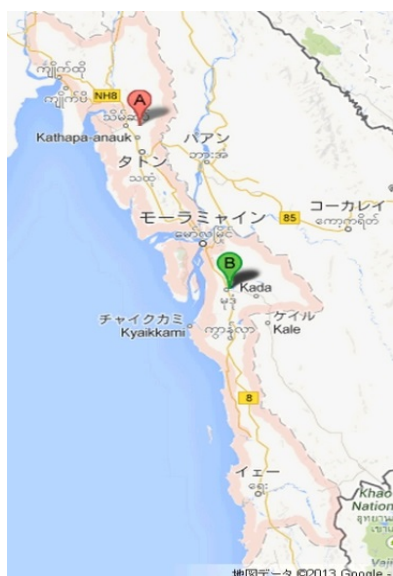
日時：2016年2月13日(土) 14:00~17:00

会場：放送大学神奈川学習センター 第7講義室

上映後「2月弘明寺サロン」を開催します

解説

文部省特選映画、日本兵の霊を慰めるため、僧侶となってひとりビルマの地に残る兵士の姿を描く。竹山道雄の同名小説の29年ぶりの再映画化。脚本、和田夏十、監督、市川崑は前作と同じコンビ。



入場無料 事前申し込み不要
どなたでも参加できます、直接会場にお越し下さい

主催：放送大学神奈川同窓会

担当：放送大学神奈川同窓会 映画研究同好会 寺村 紀美夫、柳澤 明男、吉原 司郎、古本 教子

物語の概要

1945年夏、ビルマ戦線の日本軍はタイ国へと苦難の撤退を続けていた。そんな逃避行の最中、手製の堅琴に合わせて「はにうの宿」を合唱する一部隊がいた。井上小隊長が兵士の心をいやすため、歌を教えこんだのである。堅琴で判奏するのは水島上等兵であった。小隊は国境近くまで来たところで終戦を知り、武器を棄てて投降した。彼らは南のムドンに護送されることになったが、水島だけは附近の三角山で、抵抗を続ける日本軍に降伏を勧めるため隊を離れて行った。小隊はムドンで労務作業に服していたが、ある時、青いオウムを肩に乗せた水島そっくりの僧とすれ違った。彼らは僧を呼び止めたが、僧は一言も返さず歩み去って行った。三角山の戦いの後ムドンへ向かった水島は、道々、無数の日本兵の死体と出会い、愕然としたのである。そして自分だけが帰国することに心を痛み、日本兵の霊を慰めるために僧となってこの地に止まろうと決意し、白骨を葬って巡礼の旅を続けていたのだ。物売りの話から、井上はおおよその事情を推察した。彼はもう一羽のオウムを譲りうけ、「オーイ、ミズシマ、イッシヨニ、ニッポンニカエロウ」と日本語を覚えこませる。数日後、小隊が森の中で合唱をしていると、大仏の臥像の胎内にいた水島がそれを聞きつけ、思わず夢中で堅琴を弾き始めた。兵士たちは大仏の鉄扉を開けよとするが、水島はそれを拒んでしまう。その夜、三日後に帰国することが決まり、一同は水島も引き連れようと毎日合唱した。井上は日本語を覚えこませたオウムを水島に渡してくれるよう、物売りの老婆に頼んだ。出発の前日、水島がとうとう皆の前に姿をあらわした。収容所の柵越しに、兵士たちは合唱し、一緒に帰ろうと呼びかけるが、水島は黙ってうなだれ、「仰げば尊し」を弾奏した。そして、森の中へ去って行く。翌日、帰国の途につく井上のもとへ、オウムが届いた。オウムは「アア、ヤッパリ、ジブンハ、カエルワケニハ、イカナイ」と叫ぶのだった。

スタッフ

監督 市川崑
脚本 和田夏十
原作 竹山道雄

キャスト

隊長	石坂浩二
水島上等兵	中井貴一
伊東軍曹	川谷拓三
小林上等兵	渡辺篤史
岡田上等兵	小林稔侍
馬場一等兵	井上博一
村落の村長	浜村純
物売りの爺さん	常田富士男
物売りの婆さん	北林谷栄
三角山守備隊々長	菅原文太